

# 1 すべり面の見直し

【想定すべり面 平面図（第3回検討会資料）】





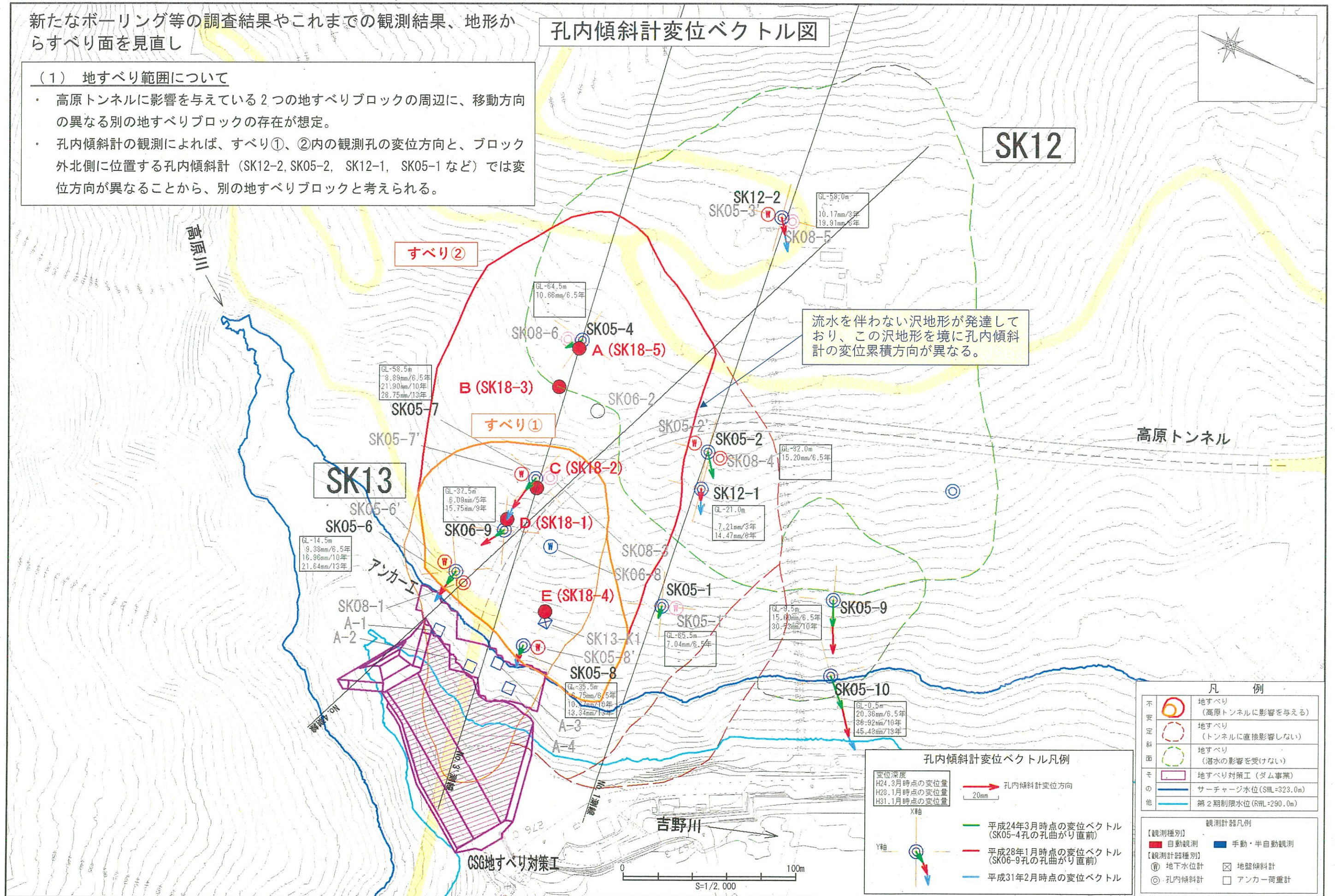
# 1. すべり面の見直し

新たなボーリング等の調査結果やこれまでの観測結果、地形からすべり面を見直し

## (1) 地すべり範囲について

- 高原トンネルに影響を与えている2つの地すべりブロックの周辺に、移動方向の異なる別の地すべりブロックの存在が想定。
- 孔内傾斜計の観測によれば、すべり①、②内の観測孔の変位方向と、ブロック外北側に位置する孔内傾斜計 (SK12-2, SK05-2, SK12-1, SK05-1 など) では変位方向が異なることから、別の地すべりブロックと考えられる。

孔内傾斜計変位ベクトル図



流水を伴わない沢地形が発達しており、この沢地形を境に孔内傾斜計の変位累積方向が異なる。

凡例		
不安定	地すべり (高原トンネルに影響を与える)	
安定	地すべり (トンネルに直接影響しない)	
斜	地すべり (湧水の影響を受けない)	
面	地すべり対策工 (ダム事業)	
の	サーチャージ水位 (SWL=323.0m)	
他	第2期制限水位 (RWL=290.0m)	
観測計器凡例		
【観測種別】	自動観測 (赤)	手動・半自動観測 (青)
【観測計器種別】	地下水位計 (W)	地盤傾斜計 (X)
	孔内傾斜計 (C)	アンカー荷重計 (A)

孔内傾斜計変位ベクトル凡例	
変位深度	H24.3月時点の変位量
	H28.1月時点の変位量
	H31.1月時点の変位量
	20mm
	孔内傾斜計変位方向
	平成24年3月時点の変位ベクトル (SK05-4孔の孔曲がり直前)
	平成28年1月時点の変位ベクトル (SK06-9孔の孔曲がり直前)
	平成31年2月時点の変位ベクトル